

様式 1：自己評価／第三者評価シート

受審ホーム入力欄	ホームID	ホーム名		自己評価結果送信日
	23s04	愛の里サンヴィラ		1月19日
評価機関入力欄	評価機関名	訪問調査日	協会への送信日	
	川原経営	2月14日	3月15日	

No.	自己評価	機関評価	No.	自己評価	機関評価	No.	自己評価	機関評価		
	1.1.1	A	A		2.3.4	A	A	※ 6.1.3	A	A
	1.1.2	A	A		2.3.5	A	A	※ 6.2.1	A	A
	1.1.3	A	C		2.3.6	A	A	※ 6.2.2	A	A
	1.1.4	A	B	※	2.3.7	B	A	※ 6.2.3	A	A
	1.2.1	A	B		2.3.8	A	A	※ 6.2.4	A	A
	1.2.2	A	C		2.3.9	A	A	※ 6.2.5	A	A
	1.3.1	A	A		2.3.10	A	A	※ 6.2.6	A	A
	1.3.2	A	A		2.3.11	A	A	※ 6.2.7	A	A
	1.3.3	A	B		2.4.1	A	A	6.2.8	A	B
	1.4.1	A	B		2.4.2	A	B	6.2.9	A	A
	1.4.2	A	C		2.4.3	A	A	※ 6.3.1	A	B
	1.4.3	A	C		2.4.4	A	A	6.3.2	A	A
	1.4.4	A	A		2.4.5	A	A	6.3.3	C	C
	1.4.5	A	A		2.4.6	A	A	7.1.1	A	A
	1.4.6	A	B		3.1.1	B	B	7.1.2	A	A
	1.4.7	A	A		3.1.2	A	A	7.2.1	A	A
	1.4.8	A	A		3.1.3	A	B	※ 7.3.1	A	A
	1.5.1	A	A		3.1.4	A	B	※ 7.3.2	A	A
	1.5.2	A	A		3.1.5	A	A	※ 7.3.3	A	A
	1.5.3	A	A		3.1.6	A	A	※ 7.3.4	A	A
	2.1.1	A	A		3.1.7	A	A	※ 7.4.1	A	A
	2.1.2	A	B		4.1.1	A	A	※ 7.4.2	A	A
	2.2.1	A	A		4.1.2	A	A	※ 7.4.3	A	A
	2.2.2	A	A		4.1.3	A	A	※ 7.4.4	A	A
※	2.2.3	A	A		4.1.4	A	A	7.4.5	A	A
	2.2.4	A	A		4.2.1	A	A	※ 7.5.1	A	A
	2.2.5	A	A		4.2.2	A	A	※ 7.5.2	A	A
	2.2.6	A	A		5.1.1	A	B	7.5.3	A	A
	2.2.7	A	A		5.1.2	A	A	※ 7.5.4	A	A
	2.2.8	A	A		5.2.1	A	A	※ 7.5.5	A	A
※	2.2.9	A	A		5.2.2	A	A	7.5.6	A	A
	2.2.10	A	C		5.2.3	A	A	7.5.7	A	A
	2.2.11	A	A		5.2.4	A	A	7.6.1	A	A
※	2.3.1	A	C		5.2.5	A	A	7.6.2	A	A
※	2.3.2	B	B	※	6.1.1	A	A	7.6.3	A	A
	2.3.3	A	A		6.1.2	A	A			

○評価スケール番号の左に※印があるもののみ、住宅型ホームやシステムの有無によって評価を非該当とすることがありうるものを指す。

⇒自己評価上で非該当としても、第三者評価の結果、該当するものとして評価される場合があることに注意。

○ホームの自己評価、評価機関の機関評価、それぞれの枠内に「A・B・C・非」のいずれかを入力する。(MSゴシック11ポイント)

※ A、B、Cは、必ず全角大文字で入力してください。

様式3：評価機関所見

※第三者評価実施後、評価機関から見て優れた取り組みと思われる点、及び改善を要すると思われる点を入力する。

1ページで収まらない場合は枠を増設する。ただし、改ページの設定は崩さないこと。

(文字入力は、MSゴシック・10ポイントで。改行はしないでください。)

1. 優れた取り組みと思われる点

スケール番号	内 容
5-1-1	レストラン形式の食堂は、適温での提供はもちろんのこと、季節毎の旬の食材をふんだんに使用した食事を提供することに努めています。食事サービスは、毎度の選択食ということではありませんが、それと同等以上にホーム長や調理スタッフの苦労や工夫が食事サービスに反映されています。施設長が自ら地元の新鮮な食材の調達に向かっています。また、ホーム自家製の果実酒を作り、食前酒として提供するなどおしゃれな演出もあります。さらに、ふぐ懷石や松茸御膳、バイキングなどの行事食についても趣向を凝らし、食事を楽しめる工夫を行っています。入居者からはアンケート形式で食事に関する嗜好調査を年5回、入居者と意見を交わす座談会形式の給食懇談会を定期的で開催する等入居者の意向も反映させた食事の充実に向けて取り組んでいます。
2-4-3	ヒヤリハット委員会を中心に、事故・ヒヤリハットの軽減に向けた取り組みが行われています。要支援・介護者だけでなく、入居者全員を対象としており、第一発見者が委員へ報告し、看護師またはリーダー介護士が対応します。第一発見者が所定の報告書に事故当時の内容を記入し、提出します。研修の機会などを通して、職員間で情報共有を行うとともに、再発防止策を毎月検討し、現場で実践するようにしています。蓄積されたデータは定期的に集計、分析がなされ、時間や曜日などの項目で事故・ヒヤリハットが起こる傾向を分析し、再発防止や未然に防ぐ対策を講じています。
3-1-3	マンション型の個室タイプですが、朝と夕の1日2回（要支援・介護者は随時）の頻度で全室を巡回し、安否確認を行っています。毎日、入居者と顔を合わす中で、介護保険を利用していない方の日常生活動作の低下や認知症の症状の確認など、状態変化を捉えるようにする仕組みがあります。

2. 改善を要すると思われる点

スケール番号	内 容
1-4-1	職員研修は、年度当初に年間研修計画を作成しそれを基本に研修を行っています。ホームの職員として必要な研修（サービス、倫理や法令遵守などまで多岐にわたる）が組み込まれています。今後は、テーマを細分化するだけでなく対象者をより細分化し、階層別の研修等、経験年数の違いやテーマの深さを意識したより実践的な研修の立案や実施などが期待されます。
1-4-3	常日頃より、ホーム長はホームの理念（あるべき姿）を語っており、ホームを取り巻く環境の情勢や厳しさを伝えております。ホームのサービス理念を職員が十分に納得されていないと感じる事をヒアリング時での会話から推察されました。職員からの改善提案に耳を貸す風土づくりや、職員が主体となった人事考課における目標面接プログラムの内容変更等の取組によって人材の育成を意識した風土づくりが期待されます。
1-4-4	
2-1-1	